



キタオットセイってどんな動物？

みなさん、キタオットセイってどんな動物か知っていますか？アシカやアザラシのように4本の足がヒレのようにになっている動物たちを鰭脚類(ききゃくゐい)といいますが、日本の周辺海域には7種類の鰭脚類が生息しています。

そのうちのひとつがキタオットセイで、現在、浅虫水族館では3頭のメスのキタオットセイを飼育しています。

キタオットセイとは

全長：オス 250cm / メス 130cm、体重：オス 280kg / メス 65kg で、オスの体重はメスのおよそ4倍もあります。哺乳類(ほにゅうゐい)では、オスとメスの大きさにもっとも差がある動物です。毛皮が上質で高値で取引されていたため、19世紀後半には、狩猟の場が陸上から洋上へと広がり、キタオットセイは激減してしまいました。危機感を持った国々が話し合い、まず、狩猟の数を制限し、1911年には洋上での狩猟が禁止されました。これにより、一時的に数は回復しましたが、その後も減少が止まらず、1985年には、陸もふくめて狩猟は全面禁止になりました。現在もエサの減少などの理由により数は増えていない状況となっています。



▲左がメス、右がオスのキタオットセイ

ストランディングについて

普段は海で生活する動物が、病気やけがなどの理由で弱ったりして、海岸に打ちあがっている状態をストランディングといいます。2018年2月4日に三沢市の海岸で野生のキタオットセイが首にビニール製の紐を絡ませて衰弱している状態で発見され、浅虫水族館が捕獲し保護しました。その後、順調に傷が回復したため、太平洋沖に放流しています。浅虫水族館が野生のキタオットセイを保護するのは8例目となります。

浅虫水族館とキタオットセイ

浅虫水族館では平成28年2月から特別な許可を得て、伊豆三津シーパラダイスで研究用に飼育し繁殖したキタオットセイを譲り受けて飼育しています。これによりキタオットセイの生態をより理解するように努めています。



▲浅虫水族館で飼育中のキタオットセイ

最後に

もしかしたら、みなさんもストランディングに遭遇することがあるかもしれません。あわてて海に戻そうとしたり、記念に写真を撮ろうと思う方もいるかもしれません。でも、彼らは野生動物です。むやみに近づくと噛みついてきたりして、みなさんや動物がけがをしてしまうかもしれません。ちょっとおかしいな?と思う動物を見つけたら一人で対応せずに、近くの役場などに連絡してください。対応が必要な場合は水族館に連絡が入ることになっています。みなさんで貴重な野生動物を守っていきましょう。